

奥会津だより

第32号

2005年秋

色づきを待つ 伊南村の大イチョウ

晩秋。風のない昼下がりに、雨のように降る銀杏の落葉を見たという人がいる。わずか30分ほどですっかり裸木になった大イチョウの根元は、大量の銀杏の葉が堆積したとどろいたろう。高さ35メートル、根周り16メートル、樹齢800年といわれる巨木は天然記念物に指定されている。

この巨木が信仰の対象になっていたのは勿論だが、垂れ下がった乳根は乳の神様として子を持つ女人の祈りを受け止め、上州や越後からの参詣者も多かったという。戦時中はこの乳根に紅い布が巻かれ、戦地に赴いた家族の無事を祈る場でもあった。

秋の心ちめ息つくたびを染まる

目黒

未来さん(朝日中)

奥会津歳時記 2

ふるさとの原風景ともいえるべき自然・風物・人情に満ちた奥会津をさらに深く感得していただくための手引きとして、協議会では平成16年度より「奥会津歳時記」の発行準備を進めてきました。来年2月の発行を目指し、奥会津の季語と例句の編集を進めています。前号に引き続き、監修にあたって頂いている榎本好宏先生に、「奥会津歳時記」の一部を紹介して頂きます。

榎本好宏先生の
季語解説

秋

新蕎麦、走り蕎麦、新蕎麦刈り

奥会津では、夏蕎麦と秋蕎麦が作られるが、主力は秋蕎麦。蕎麦好きは、まだ葉の青い十月初旬に刈り取って新蕎麦を打つ。新蕎麦好きの通人が昨今多くなったところから、蕎麦屋も十月初旬から新蕎麦を売り出す。祝い事の蕎麦には蕎麦口上が付きものだが、この口上芸を伝承す



ソバ畑・三島町

歳時記の郷 奥会津俳句大賞を募集します

第10回となる「歳時記の郷 奥会津俳句大賞」の作品を募集しています。

- 締切：10月31日(月) 当日消印有効
- 申込先：〒969-7511 福島県大沼郡三島町宮下字中乙田979 奥会津書房内 歳時記の郷奥会津俳句大賞事務局
- 問い合わせ：奥会津書房内 歳時記の郷奥会津俳句大賞事務局 ☎0241(52)3580 FAX0241(52)3581

奥会津吟行の旅と俳句特別講座の開催

秋の奥会津を吟行していただき、俳人の榎本好宏先生の「奥会津食歳時記」についての講座が開かれます。ぜひご参加ください。

- 日時：平成17年10月11日(火)
 - 集合：会津若松駅前 (バスが待っています)
- ※詳細については上記の奥会津書房俳句大賞事務局までお問合せください。

る人達が、どこの町村にも数人はいる。

冬

雪踏、踏儀

今でこそ雪掻き用の機械が普及して、どんな細い路地でも除雪されるが、かつては大雪の後、この雪踏の姿がどこでも見られた。全集落の一戸から一人が出て、踏儀を履き、多勢が行列になって雪原を踏み固めて行った。その雪踏が終えるころ、学校へ行く子供達が家々から出てくる。



家の前から道路までは、毎日雪かきが必要だ。

『奥会津歳時記』では榎本好宏先生の他に、黒田杏子先生による例句もあります。奥会津の季語を通して、より深く奥会津を味わっていただくきっかけになることでしょう。

青年団のイベントとして、田子倉湖でカヌーに乗った。今までは道路から見ただけだった湖に舟を浮かべてみると、初めて見る風景が見えてきた。乗り出す前には何か恐ろしくも見えた深緑の湖水は、思っていたよりも温かく、穏やかだった。時折風が吹いてきて小波が立つくらいで、車の音も聞こえてこない。岸には無数の流木が漂っているだけだ。昭和二十年代の半ばまで、奥会津では山から切り出した木材を輸送するために、伊南川から只見川、そして津川方面へと筏流しが行われていた。川は時折急流があり、命を落とした人も少なくないが、今よりも交通の便が悪かった時代に、川は重要な役割を担う路

奥会津つれづれ

だったのだ。只見川は、上流にダムが作られてからその姿がガラリと変わり、ゴンゴンと水が流れる用水路になってしまった。小さい頃から、流されたらとこわくて近づけない場所が川だった。それが大人になって伊南川で遊ぶようになり、本当の川は、川幅や深さ、また石などの障害物によって、それぞれに違う流れをもっていること知り、川は遊び場として身近なものになった。十年後も、人々にとって川が憩いの場所であるにはどうしたらいいか。まずは一人一人が川に目を向けることが第一歩だと思う。(迄)

巻物考 ③ - 屋根葺

福島県歴史資料館

山田 英明

奥会津には、多くの巻物が残っている。前回に引き続き、今なお現役として通用している巻物を紹介することにした。冬場の代表的な出稼業のひとつ「屋根葺」である。会津の屋根葺といえは、耶麻郡西部と大沼郡・南会津郡の職人たちがよく知られている。前者は主に県内の中通りと浜通りを仕事場とし、後者は特に関東地方を縄張りとした。このうち、巻物を多く所持したのは南会津の職人たちで、その風習は今も残されている。たとえば、只見町では、平成になってからも、師匠の死によって巻物の継承が叶わなかった門人に対し、兄弟子が代わって伝授を行なったことがあったという。それらの巻物について、内容を覗いてみると、筑波山に関する記述が

多いことに気付く。筑波山とはもちろん、茨城県つくば市にある霊峰のこと、これは「草葺不合尊」が屋根葺の技術を「筑波男体霊貴尊」に授けたという神話によっている。つまり、筑波山との関係を強調することで、自分たちの正統性を誇示しているのである。

また実際に、筑波山周辺には優秀な職人が多かったといひ、会津の人々は彼らから多くの技術を学んだと伝えられる。会津と筑波という遠く離れた地域が、屋根葺によって結びついている点は、会津文化の奥行を考えるうえで実に興味深い。

なお、この分野については、菅野康二氏の「茅葺きの文化と伝統」(二〇〇〇年、歴史春秋社)があるので、詳しくはそちらをご覧ください。



「隠れたスポット・共同浴場」

館岩村・湯の花温泉／木賊温泉

前言でご紹介した共同浴場の続編として、奥会津でも最も温泉の数が多い館岩村を散策してみよう。
湯ノ岐川沿いの湯ノ花温泉郷は鎌倉時代に発見されたと伝えられる歴史のある温泉。また西根川沿いの木賊温泉郷は、奥会津を代表する秘湯で、秋色を深める隠れ里の雰囲気漂う。
二つの温泉郷の中でも、人知れず豊かな湯を温める村湯を巡ると、俗界がにわかには遠のいて行くようだ。

湯の花温泉の石湯

湯ノ花は、石湯、上、中、下の4つの集落から成り、それぞれに石湯、湯端の湯、天神湯、弘法の湯を持ち、いずれも集落で管理している。

湯ノ岐川の最も下流にある石湯は、巨大な岩をくりぬいて湯船としていることから石湯と呼ばれているが、湯で温められた岩盤も心地よい温かさだ。



湯小屋をかぶっている石湯

石湯



岩盤を掘った石湯。岩の上には、神棚が奉られている

透明な湯が青みがかって見えるのは、毎朝住民が丹念に湯船の石を磨き続けた証し。20人の回り番で、毎朝の清掃が途絶えたことはない。内部に突き出た岩の中央に神棚が奉られ、大切に管理してきた住民の姿勢がうかがえる。

浴槽の脇から流れ込む二箇所湧出ポイントがあり、トロミのある石膏味の泉質は、ナトリウムやカルシウムを含んだ単純泉である。混浴だが、人



岩風呂へ下りる小道



川に面して二つの湯船が掘られている

岩風呂



ズラリと並んだ寄付札

木賊温泉の岩風呂

気のない日中は貸し切りで楽しめる。入浴時間帯は朝6時から夜10時まで。入浴料200円。ただし、午後8時から9時までは住民専用時間帯となっております。

※前号では男女別と表記しましたが、混浴の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

平野物産向いの駐車場に車を止めて、川べりに下りる小道が美しい。溪流の響きと赤トンボの群れに導かれてそぞろ歩くと、屋根のある露天風呂が現れる。

川岸の岩の間から沸き上る湯を集めるために、岩をくりぬいて湯船にしてしまった贅沢な造りは湯の花の石湯と同じだが、こちらは湯温の異なる二つの湯船があり、混浴だが女性用の小さな脱衣所がある。

増水で湯小屋が流されることもあったが、湯を慈しむ住民の熱意が現在まで岩風呂を守ってきた。

奥の湯船の底から自噴する青みがかった透明な湯は、硫黄の単純泉。

●24時間入浴可。入浴料200円。

※男女別の温泉でのんびりしたい方には、近くに「広瀬の湯」もある。

《問い合わせ》

館岩村観光協会 ☎0241(78)2546



湯の岐川の清流

「歳時記の郷 奥会津フォトコンテスト」入賞作品より 奥会津とっておきの風景

奥会津の美しい紅葉

*詳しい撮影場所、その他の入賞作品はホームページでご覧いただけます。
《歳時記の郷 奥会津》 <http://www.okuazu-style.com/tdrsk/>



第5回作品 『美しい山、 嬉麗な電源』
撮影者：高萩光子
撮影地：只見町



第1回作品 『奥只見』
撮影者：工藤千恵子
撮影地：檜枝岐村



第7回作品 『行く秋』
撮影者：安藤陽一郎
撮影地：昭和村



第1回作品 『彩の季節』
撮影者：穴原志朗
撮影地：三島町



第4回作品 『つむじくら滝の秋』
撮影者：山野井 理
撮影地：柳津町

茄子とみょうがの炒め物



作り方

秋茄子は皮が硬いので、皮をところどころおいて、タテ切りかさいの目に切り、油で炒める。茄子に火が通った頃、下味にミソを少々入れて馴染ませ、縦に切ったみょうがと刻んだシソの葉を入れてさらに炒め、最後に醤油と砂糖を入れて味を締め調える。

嫁に食わずなという秋茄子が盛りだ。茄子とみょうがを炒める手軽な一品だが、どの家庭でも食卓に載るこの季節の定番料理となっている。

思い出を一言

秋は茄子がうんとまいよ。実が締まってね。硬めだから縦に細く切ったり、さいの目に切ったりして楽しむの。なべに残ったればもったいないから、ご飯を入れて炒めると、これも目を楽しませてくれるごっつおなんだよ。秋茄子は嫁に食わせんなって言うのは、髪が抜けっかんだとが、硬くて身体に悪いだとか、嫁がむせえからって言うんだが、どうだかなあ。(小池 電子さん・柳津町)

てわざのものたち 特産品紹介

漆の和蠟燭(金山町)



漆の実を使った和蠟燭が作られているのは、国内でも金山町のみである。技術保存団体が、途絶えていた蠟しぼりの技術を復元してわざかながらも作り続け、福島県の伝統工芸品に指定された。漆蠟の実を採取してしぼり、蠟燭の形にするまで気の遠くなるような工程と労力を要する。こうして生まれた手づくりの和蠟燭は、現在、町内を中心に少しずつ販路が広がり始めている。今年も10月頃からこの作業が始まる。和蠟燭作りの体験は要予約。

一本 1,000円から
【問】金山町中央公民館
0241(54)5361

9月・10月 奥会津イベント情報

9月

三島 会津地鶏まつり

会津地鶏を使ったバーベキューや焼き鳥、地鶏ラーメンなどを味わえるほか、会津地鶏そばキレイに早食いレースやヒナとふれあえるコーナーなどイベントが盛りだくさんです。
日 時 平成17年9月11日(日)
午前10時から午後3時
場 所 三島町美坂高原
※バーベキューコーナー150名定員
問 合 せ 三島町産業建設課
電 話 0241(48)5533

伊南 伊南川あゆまつり

伊南川のあゆはもちろんのこと、生そば、きのこ汁など伊南村の秋の味覚を地酒とともにたっぷり味わって下さい。
日 時 平成17年9月24日(土)
正午から午後2時
場 所 伊南村運動公園
定 員 250名 先着順
切 合 平成17年9月14日(水)
伊南村商工会
問 合 せ 0241(76)2214

第9回奥会津フォトコンテスト・只見線&SL写真コンテスト優秀作品発表展

第9回奥会津フォトコンテスト及び只見線&SL写真コンテストの優秀作品発表展が開催されます。四季折々の風景や只見線・SLが力強く走る作品など約150点が展示されます。お近くにおいでの際はぜひご覧下さい。
開催期間 平成17年9月13日(火)～9月19日(日)
時間 午前10時～午後6時
初日は午後2時開場
最終日は午後3時開場
会場 東京都内 テブコ浅草館 3Fギャラリー (東京都台東区西浅草2-27-7)
入場無料
問 合 せ 奥会津「写真・文化の郷」事務局
電 話 03(5638)2217

10月

昭和 駒止湿原散策とブナ植樹

稲刈り体験の他、駒止湿原の散策とブナの植樹を行います。
田島町と昭和村に広がる駒止湿原を散策してからブナの植樹を行います。
日 時 平成17年10月2日(日)時間未定
場 所 駒止湿原
参加料 無料
問 合 せ 昭和村産業建設課
電 話 0241(57)2117

檜枝 紅葉の尾瀬ハイイク

現地の案内人と一緒に秋の尾瀬沼、尾瀬ヶ原を歩いてみませんか。みなさんの参加をお待ちしています。
日 時 平成17年10月4日(火)、5日(水)
場 所 沼山峠休憩所前に8時30分集合
参加料 1,000円(交通費、宿泊費は各自負担)
切 合 平成17年9月20日(火)
申 込 先 尾瀬檜枝岐温泉観光案内所
電 話 0241(75)2432

金山 かねやまごっつおまつり

新そばの試食のほか、スローフードフェア・スローライフフェアが行われます。
日 時 平成17年10月30日(日)
場 所 金山町中川町民体育館周辺
問 合 せ 金山町産業課
電 話 0241(54)5327

館岩 前沢曲家まつり

湯ノ花神楽の上演、赤カブ・きのこ汁等の郷土料理の提供など。希望者は、わら細工の体験もできます。
日 時 平成17年10月30日(日)
場 所 前沢ふるさと公園(前沢曲家集落)
入 場 料 大人300円、子供150円
問 合 せ 館岩村観光協会

紅葉情報

- ◆電話 0241(78)2546
- ◆フックス 0241(78)3050
- 柳津町
*福満虚空蔵尊圓蔵寺白土塀 (10月中旬から)
- 三島町
*只見川ライン下りから見た紅葉 (10月中旬から)
- 金山町
*太郎布高原のソバの花 (9月上旬から10月上旬)
- 昭和村
*矢ノ原湿原(10月下旬)
- 只見町
*田子倉湖周辺及びアイヨシの滝 (10月中旬)
- 南郷村
*高清水自然公園(10月下旬)
- 伊南村
*屏風岩(10月中旬)
- 館岩村
*前沢曲家集落全景(10月中旬から下旬)
- 檜枝岐村
*御池までのブナ平の紅葉(10月上旬)

方言クイズ

クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題: 次の方言の意味は何でしょう?
「むすせえ」
ヒント: 『思い出の一品』の「思い出を一言」に注目
正解者の中から抽選で5名様に、館岩村の花嫁さざぎ(甘露煮)をプレゼントいたします。
●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。
●あて先: 〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛
●応募締切: 9月30日消印有効

お便り紹介

●ぶあつい書物も立派だが、「奥会津だより」は、ぬくもりとふるりの原音がいつべえある様でたのしみだし…。(福島県柳津町・Yさん)
●4ページしかないのに中身が豊富です。古いもの真に価値ある物は、存続させる為には大変な努力(苦勞)が伴うものです。誇りをもって、どうぞ誌の発行に取り組んで下さい。(福島県安達町・Kさん)

◎31号「いつべえ」の答え◎
たくさん
たくさんのご応募ありがとうございました。